

企画建設常任委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和5年7月27日(木) 第3委員会室
2. 出席委員 吉川遂也委員長 藤原洋二副委員長 堀井秀昭 徳永泰臣 近藤久子 政野太
松本みのり
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 横山和昭議会事務局議事調査係長
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 なし
7. 傍聴者 なし
8. 会議に付した事件

- 1 所管事務調査について

午前10時55分 開 議

- 吉川遂也委員長 ただいまから企画建設常任委員会を開会いたします。傍聴、録音、写真撮影、録画を許可いたします。
-

1 所管事務調査について

- 吉川遂也委員長 本日の議題につきましては、モアノートにありますように所管事務調査についてということで、今後どのように進めていくかを御議論いただきたいと思っております。御手元の資料の中にありますように、所管事務調査の内容については3件、本市における自治組織の課題と対策等について、2番目に持続可能な森林経営の構築について、3番目に自治体DX及び地域社会のデジタル化推進について、という3点を前回の委員会で決定いただきました。この3点をどのように進めていくかをお諮りしたいと思います。何か御意見があれば、先にお伺いしたいと思います。近藤委員。
- 近藤久子委員 本市における自治組織の課題と対策等についてというのは、もちろん議会側も、今から真剣な議論とか討議を進めていくわけですが、当然、この市役所の職員も、担当課にしてももういろいろと動かれているのではないかと思います。そういうところを最初聞いてみるのもいいのかなと思っています。それと、まだ全て回っておりませんが、自治振興区それぞれの状況がまるで違うというところを本当に痛切に感じざるを得ない状況もあります。人口減少だけではなく、組織そのものがやっていけないのだと。そういう生の声もお聞きする議会が当然あるべきではないかと思っております。それをあわせて、我々の意見も入れながら、今後どうしていくのが1番ベターなのだろうか。全国的に見てですよ。どこも人口減少とかある中で、必死で自治組織をどうやって維持していこうかというところがあるわけで、そういう先進事例があれば、そこに行かせていただくのもまた一つの案なのかと思います。
- 吉川遂也委員長 先ほど近藤委員からありましたように、市の部局としてどのような対応されているかという点について、先に確認したところによりますと、自治定住課で県立広島大学地域戦略共同プ

プロジェクト事業ということで、共同で自治振興区に対して、令和4年度でアンケートをとられているということがあるようです。アンケートの内容というのは先ほど来、前回の委員会でも討論しましたように、役員の後継者不足がどうかとか、自治振興区の意見を取りまとめていくという状況が令和5年4月に報告書が提出できるように進められたと報告がありました。アンケートを含めて課題をどのように把握されているかを自治定住課に来てもらってお話を聞くということは、すぐできるのかと思います。ほかに進め方について御意見があれば、よろしく願いいたします。徳永委員。

○徳永泰臣委員 担当課の話聞くのはもちろん必要であろうと思いますし、実際に、当然アンケート結果も尊重しないとイケないと思うのです。いろいろなパターンの自治振興区があると思うのですけれども、そこに行って直接話を聞くことが大事ではないかと思うのです。全部の振興区はとてでもきそうにないので、ある程度絞って、先進地、小規模とか、衰退してきているとかに分けて、話を聞きに行かせてもらったらいいのではないかと思います。

○堀井秀昭委員 今朝の議会運営委員会で、11月に行う市民と語る会の議会の共通テーマの一つに、このことを持って出るということにした。そこら辺との兼ね合いがあるので、語る会では全自治振興区を議員が手分けをして回りますから、それまでに担当課や議会が課題等を確認していく。語る会ではこういったテーマを持って出ると、自治振興区の関係の方の積極的な意見も出るのではないかという予測をしますから、それまでにいろいろな課題について、委員会として確認をしていく活動をいろいろとやったらどうでしょう。

○吉川遂也委員長 ほかにありますか。どうぞ。

○政野太委員 アンケートは何のアンケートでしたか。

○吉川遂也委員長 これは県大の西村教授が自治振興区と自治会に向けて、199件出して127件回答があったという自治定住課からもらった資料があるのですけれども、そこで昨年度の中での課題を抽出して分析をするという事業だと思います。政野委員。

○政野太委員 つい最近皆さんも受け取られた方もいらっしゃるのではないかと思います。地域に関するアンケートがあったと思うのです。その中に自治会、自治振興区等のいろいろ課題を書くというアンケートが行われております。この集計が恐らく半年以上はかかるのではないかと思います。ですけども、この期間中であれば、そういったものも参考にしてもどうかと思うのです。なぜかという、自治会、自治振興区の役員の方と対話することは、僕らはすぐに可能なのですけれども、そこと市民との乖離というものが多分あるのではないかと思います。そういうものも、そのアンケートから見えてくれば、また違う答えも導き出せるのかと思うので、それも一つ提案をしてみたいと思います。

○吉川遂也委員長 先ほど徳永委員からありました振興区を回ってということは、堀井委員からあったように、市民と語る会の中で補完できる部分があれば、それで課題や意見を聞くことはできるのかなと思います。昨年度の事業の中であった県大のアンケートを含めて、現状で自治定住課がどういう課題認識をしているかという問いかけは、すぐできるのではないかなと思うので、とりあえず自治定住課を呼んで意見を聞かせてもらうという運びでいいかと思うのです。その中で市民と語る会に向けて、3月議会の中で報告ができるようにまとめを、このテーマについて進めていくという方向でよろしいでしょうか。政野委員。

○政野太委員 そこにつけ加えられなかったのですけれど、僕は市民と自治振興区との関係が一つの視

点として必要ではないかと思うのです。要するに役員の方々の課題と、市民の方が実際に振興区、自治会についてどのように思っているかということについても、その中の一つの参考にすべきではないかと思うのです。いかがでしょう。あくまで役員の方は運営に関する課題はお持ちですけれども、実際に恐らく似たような課題を言われると。それはなぜかという、市民との距離感がどうしても生まれているのが原因ではないかと思うので、その視点を抜きにして、この自治振興区の課題、自治組織の課題というものの答えを出すことはできないのではないかと思う。

○吉川 遂也委員長　　今の市民アンケートという部分は、その分がどれぐらいで集計や集約できるのかということも含めて、それをスケジュールに盛り込んで、最終的な取りまとめの中で、その意見を生かすという方向になるかとは思っています。あと課題として、後継者不足とか役員が固定化するということは、きょねんの市民と語る会でいろいろ出ていた案件だと思う。プラス、やはり振興区の制度自体がどうだったかと。これまでの取り組みとしてどうだったかと。また今後その今の組織の在り方で進めていってよいものか。要は組織の編成がいいのか。あるいは予算の配分の方法は、今のままでいいのかという点も含めての議論になるかと思うのですが、その点はどのように進めればよいかと思案するのです。アンケートの中で、そういった予算配分であるとか、今の事務職員の手当の金額が適正かどうかということも含めて、課題として同じように自治定住課長が把握されているのであれば、解決手段を提言できるような委員会を進めればよいかと思うのですけれども、そういったところまで踏み込むかどうか。いかがでしょう。堀井委員。

○堀井 秀昭委員　　語る会には役員ではない人も来られるので、議会が共通テーマとして持って出ていけば、市民の方の自治振興区に対する思いというのも、そこら辺ではかなり意見交換ができるだろうという期待はしている。当面の大きな課題は、担当課が自治振興区に対して、何を期待しているのか、何をやらせようと思っているのか。そこら辺のところをきちんと確認して、つくり上げていく必要が1番あると思う。何でも屋ではないのだから。そこら辺の確認をとりながら、これからの自治振興区の課題とやらないといけないことをある程度確認をしていきながら、それなら行政としては、どういう対応と、どういう予算を検討していけば、そのことへ向かっていけるのだろうというところを導き出していきたいと思います。

○吉川 遂也委員長　　副委員長。

○藤原 洋二副委員長　　私も堀井委員の意見にすごく賛成しております。今の自治会、自治振興区の体制が改編してうまく回るようなことで、解決すればいいのですけれども、お金も含めて。一定の役員もいない、規模も小さい、人口減少も含めて、回らない自治会、自治振興区につきましては、以前に戻る、私は以前の行政が責任を持つ公民館方式も一部視野に入れた方向でないと地元がもたないのではないかという懸念もしております。これは極端な例かもしれませんが、そこらも含めた検討が必要ではないかと考えております。

○堀井 秀昭委員　　まず、担当課を呼んで、どういう考え方で進めようとしているのかを確認しながら、課題と対応策を議会として、つくり上げていくという方向でいいのではないですか。

○吉川 遂也委員長　　わかりました。そういう方向でよろしいでしょうか。このテーマにつきましては、市民と語る会のスケジュールもありますので、8月後半ぐらいに担当課を呼んでの話ができるように準備できますか。8月後半ぐらいでスケジュール調整をさせていただきたいと思います。まず1番のテーマについては、先に進めていくということで確認していただければと思います。では次の持続可

能な森林経営の構築について、というテーマについてですが、この件についてはテーマが広範であってまた深いものもありますので、時間がかかるのではないかと思います。具体的に、前回の委員会の中で森林環境譲与税の用途等、個別なテーマが出ておりましたけれども、加えてまた新たに何かテーマ等が考えるものがあれば、御意見をいただければと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員　ほかに今のところでは特にはないのですが、個別経営の状況にまで踏み込むわけにはいかない。主なテーマとしては森林環境譲与税、それをいかに有効に生かしていくか。そういったところに視点を向けて絞り込んでもいいのではないかと思います。

○吉川遂也委員長　ほかにありますか。今まではずっと積立金として上がってきていたのですが、今年度4月ぐらいになってから、県から事業を早く進めろという方向の意見が出てきていると聞いております。その用途について、多分担当課もいろいろと考えはあるようですが、担当課の意見も聞きながら、新たな提言ができればとは考えるのですが、この第2のテーマについて森林環境譲与税の用途に絞る方向でよろしいでしょうか。ほかに付け加えるテーマがあれば、進めながらでもいいと思いますが。では、これもまた担当課を呼んで森林環境譲与税の使い道等についての施策、4月に出ているものもあると思いますが、そのほかの考えがあればということも含めて、お伺いしてから、進めていくという方向で検討したいと思います。では次に自治体DX及び地域社会のデジタル化推進について、という事柄についてですが、この点の検討課題、あるいは進め方等について御意見があれば再度お願いしたいと思います。副委員長。

○藤原洋二副委員長　避けては通れないものなのですが、やはり自治体間で、どうしても取り組む、取り組まないで差が出てくる。スタートが大変重要だということで、職員も執行部も含めて、これは必要である認識をするべきだと思います。直ちにすぐ結果が出るものではないので、私個人的には、令和5年6年で相当な準備をして、令和7年からそれぞれスタートできるような形で整備すればと。そこで議会がどのような提言ができるかというところで、国内には相当進んだ自治体もございますので、そこらの事例を参考にしながら、本市の方向性を、まずやるべきこと、中長期的なことも含めて検討するべきだろうと考えております。

○吉川遂也委員長　この案件に関しては、現在行われているデジタル推進系の事業についても聞く必要もあると思います。また足りない部分はどういう部分ではないかという提言ができる範囲はかなり広いと思いますけれども、この点については、他の先進事例を確認しに行くということも、いろいろできそうな部分ではあります。もしそれぞれでこういったところの先進事例があるという話が耳に入るようでしたら、先に検討いただいて提案いただければ、委員会として見に行くこともできるのかと考えております。松本委員。

○松本みのり委員　デジタル化推進、まず何のためにどういう目標を持って進めるのかということを持っておかないと、先進地と言っても目指すところによって全然違ってくると思うので、その部分の確認が要るのかと。何を庄原市は目指していくのだろう。難しいのですが、

○吉川遂也委員長　政野委員。

○政野太委員　目的がそもそも何かをもう一度共有するべきだと思うのです。いろんな目的があったと思います。例えば担い手不足であるとか、人口減少であるとか、そういった原因、それを担うためのものであるということをもう1回認識するべきだと思う。目的を明確にして、その一つの例とすれば、保育所で取り組んでいращる連絡ノートのデジタル化ですね。これが一体何のために、何の役に

立つのか。見る側のためなのか、それとも発信する側のためなのかをもう1回認識してはどうかと思います。もちろんそれには担当課の思いも聞かないといけないので、まずは担当課とその辺の共有をしてみてもどうかと思うのです。

○吉川遂也委員長　　よろしいかと思います。企画課が2年前ぐらいから取り組みを始められる中で、るる、説明をされたとは思いますが。当然職員の業務の軽減化であるとか、地域においては人口減少に対応するという含めてありました。今回、事務調査報告に入れる中で、その目的を再度確認して、その通りに進んでいるかどうかというところも課題に入れればと思います。この件に関しても企画課に来ていただいてお話をお伺いして、意見交換をしてから進めていこうと思いますが、よろしいでしょうか。全体的なスケジュール感を話をさせていただきますと3本を並行して進めていくのがいいのか。まず、一つ終わらせて次にかかるのがいいという考え方もあるのですが、その辺の意見があれば、お伺いしておきたいと思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　同じ日にこの三つの課題について、担当課を呼ぶことは時間的には随分余裕がある。別に日にちを変える必要はない。

○吉川遂也委員長　　準備ができたところからという話になろうかと思います。調整をさせていただいて、感覚としては3本を同時に進めて、まとめについては個人的には1番の事業については、今年度中に出したいと思います。2番3番については少し時間がかかるので2年間になるかもしれないと思いますが、よろしゅうございますか。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　タブレット、これらもう自治体DXのうちなのです。執行者も持つことになったと聞いたのだけれども、この前の本会議、職員はあまり持っていなかった。

○政野太委員　　本会議場の職員は持っていた。デジタル推進の中に、やはり市長の決裁とかも入るのではないかと思います。庄原市の課題、皆さん多分感じていらっしゃると思うのですが、決裁をとるのに非常に時間がかかっている現実があって、そこら辺もこの中に入れてもいいのではないかと。いかがでしょう。

○吉川遂也委員長　　その点の現状と課題把握についても、担当課に説明ができるような資料は求めたいと思います。先ほど言いましたように、8月中旬以降から委員会の準備を進めていきたいと思いますので、御協力をお願いいたします。また年度のスケジュール感として仮にどこか先進地の視察等提案があるようでしたら、10月くらいになろうかと思いますので、もし行ってみたいというところがあれば早めに御連絡いただければ準備に入りたいと思います。あわせてお願いします。その他御意見、何かほかのことでもありましたらお伺いしますが。よろしいですか。では、これで企画建設常任委員会を散会いたします。ありがとうございました。

午前11時22分　散　会

庄原市議会委員会条例第30条の規定によりここに署名する。

企画建設常任委員会

委員長